

市民アンケート結果

神崎市

市民・中高生の声

総合計画を策定するにあたり、市民の意見を幅広く反映させるため、市民アンケート調査と中高生アンケート調査を実施しました。

アンケート調査の実施概要

アンケート調査の実施概要は次のとおりです。

[市民アンケート調査]

調査対象及び配布数：18歳以上の市民から無作為抽出で2,389名
実施時期：平成18年10月
回収数：868票
回収率：36.3%

[中高生アンケート調査]

調査対象及び配布数：中高生から無作為抽出で300名
(中学生150人、高校生150人)
実施時期：平成18年10月
回収数：300票
回収率：100%

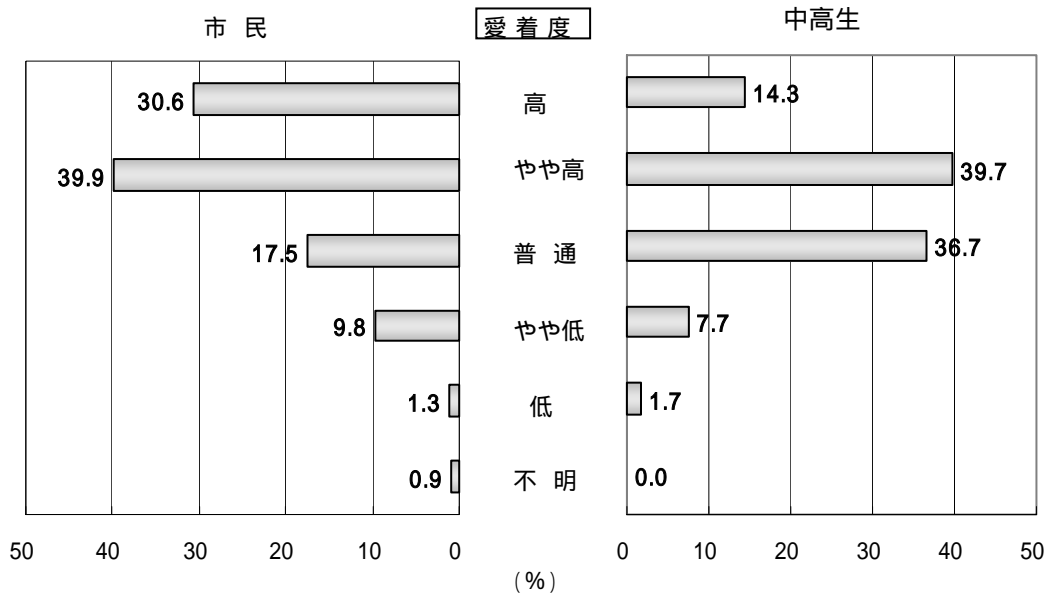
結果概要

調査の主な結果概要は次のとおりです。

今住んでいる地域への愛着 [市民、中高生]

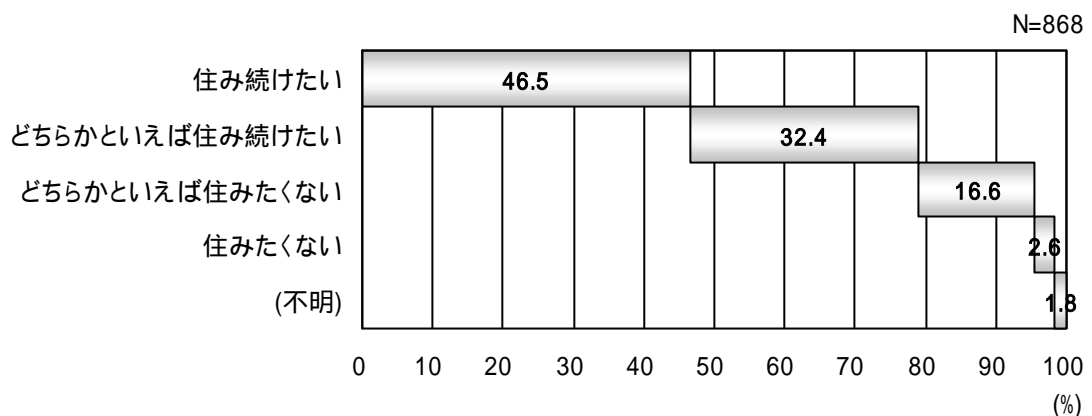
市民アンケートでは、今住んでいる地域への愛着度は「愛着を感じている」と回答した人は30.6%、「やや愛着を感じている」という人は39.9%で、これらを併せた“愛着を感じている”という人が約7割に達し、多くの市民が自分のふるさととしての愛着や誇りを持っていることが窺われます。

中高生アンケートでは、神崎市を「とても好き」と回答した人は14.3%、「まあまあ好き」という人は39.7%で、これらを併せた肯定的評価は過半数に達していますが、市民アンケートに比べた愛着度は低くなっています。



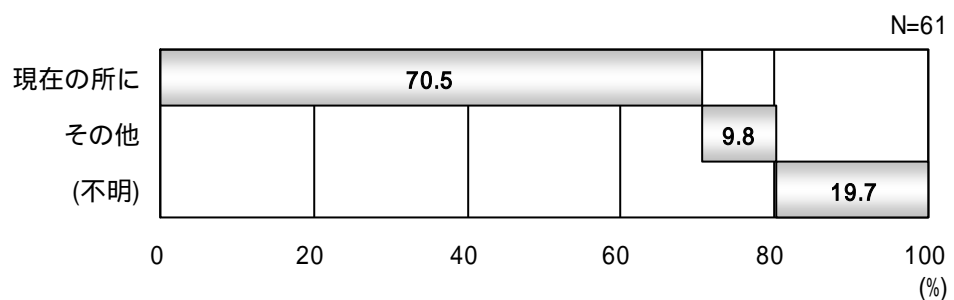
今住んでいる地域への今後の定住意向 [市民、中高生]

市民アンケートでは、今住んでいる地域に今後も「住み続けたい」と回答した人は46.5%、「どちらかといえば住み続けたい」が32.4%で、これらを併せた“住み続けたい”という人が約8割を占め、愛着度よりも定住意向が高くなっています。



中高生アンケートでは、「住む・住み続ける」という定住意向がある人は21.8%、「ほかのまちに住み時々遊びに来る」定住意向がない人が40.0%となっています。

定住意向がある人については、将来住む、住み続ける場所としては「現在の所に」が7割以上を占めています。

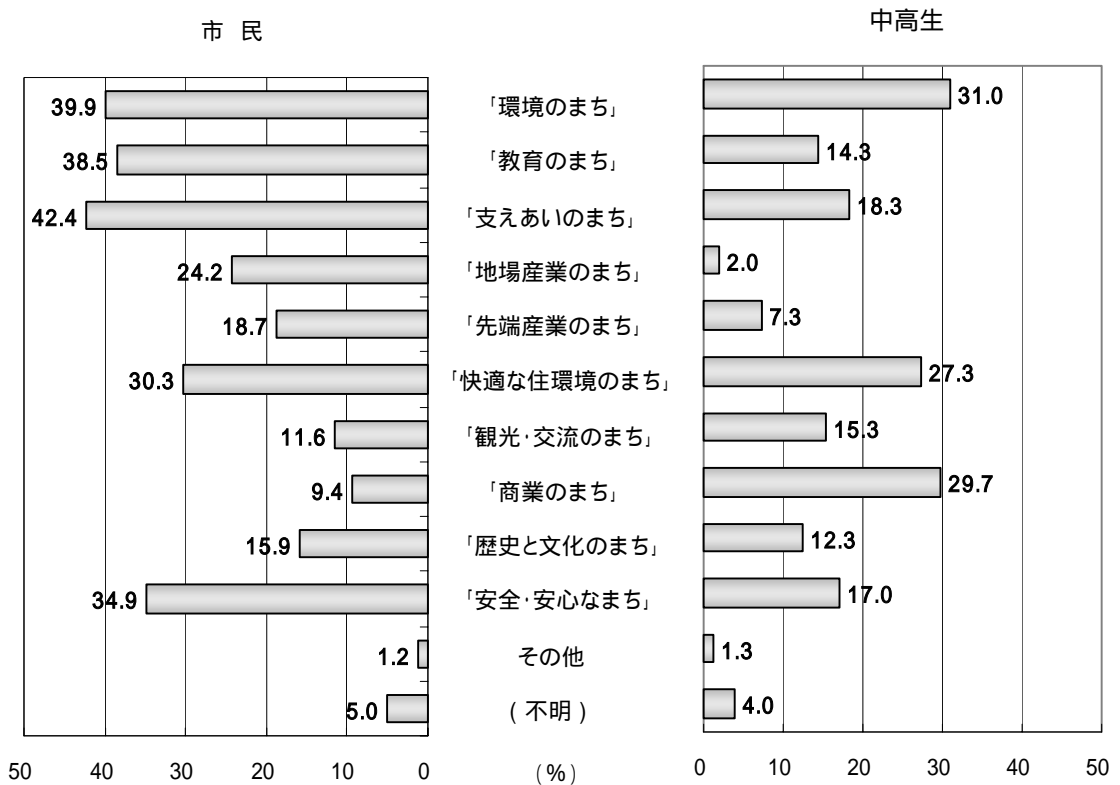


まちづくり推進のための力点 [市民、中高生]

市民アンケートでは、まちづくり推進のための力点として4つの項目が突出しており、『高齢者・障害者を大事にする「支え合いのまち」』が42.4%で最も多く、次いで『自然や歴史と共生する「環境のまち」』39.9%、『子どもの夢を応援する「教育のまち」』38.5%、『防災・防犯に力をいれる「安全・安心なまち」』34.9%となっています。

中高生アンケートでは、神埼市のまちづくりを推進するために『自然や歴史と共生する「環境のまち」』が31.0%で最も多く、次いで、『買い物客でにぎわう「商業のまち」』が29.7%、『美しいまちなみ、快適な住まいの「快適な住環境のまち」』27.3%となっています。

中高生アンケートでは、「商業のまち」、「観光・交流のまち」の2項目が市民アンケートに比べて高くなっています。



まちづくり施策（分野）への評価 [市民]

[重要度評価]

まちづくり施策（分野）の重要度評価として、「保健・医療体制の充実」「幼児教育、学校教育の充実」「子育て支援、児童福祉の充実」「高齢者・障害者等福祉の充実」といった保健・福祉分野の施策が上位4項目を占め、次いで、「豊かな自然環境の保全と活用」が挙げられるなど、市民の安心・安全に対する関心・ニーズの強さが窺われます。

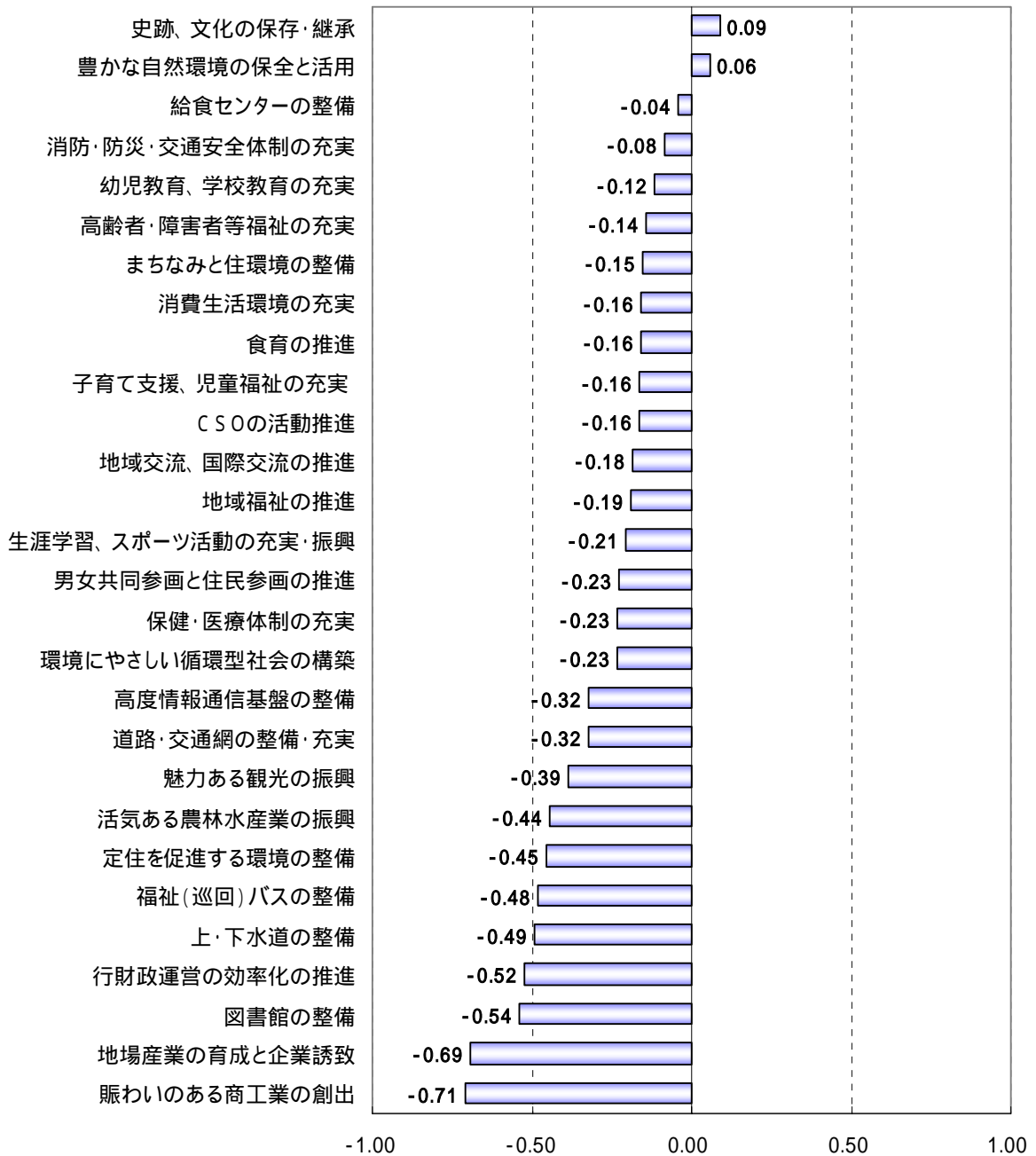
重要度評価



[満足度評価]

施策（分野）に対する満足度については、総じて市民の評価は厳しく、中でも「賑わいのある商工業の創出」「地場産業の育成と企業誘致」といった産業関連施策に対する満足度が低くなっています。

満足度評価



[CS分析]

重要度評価及び満足度評価に基づくCS分析的観点から整理すると次のとおりです。

まちづくり施策(分野)のCS分析

	[低]	重要度	[高]
[高]	史跡、文化の保存・継承		豊かな自然環境の保全と活用
	魅力ある観光の振興 福祉(巡回)バスの整備 高度情報通信基盤の整備 地域交流、国際交流の推進 男女共同参画と住民参画の推進 CSOの活動推進	地域福祉の推進 食育の推進 活気ある農林水産業の振興 まちなみと住環境の整備 環境にやさしい循環型社会の構築 道路・交通網の整備・充実 消費生活環境の充実 給食センターの整備 生涯学習、スポーツ活動の充実・振興	高齢者・障害者等福祉の充実 子育て支援、児童福祉の充実 保健・医療体制の充実 定住を促進する環境の整備 上・下水道の整備 消防・防災・交通安全体制の充実 幼児教育、学校教育の充実
[低]	図書館の整備	賑わいのある商工業の創出	地場産業の育成と企業誘致 行財政運営の効率化の推進

厳しい財政状況の中、今後重点的な予算配分を行う場合、市民意向としては次のような施策(分野)への重点的投資・展開が望まれているものと言えます。

最重点施策(分野) = [重要度:高] × [満足度:低]

地場産業の育成と企業誘致
行財政運営の効率化の推進

重点施策(分野) = [重要度:高] × [満足度:中]

高齢者・障害者等福祉の充実
子育て支援、児童福祉の充実
保健・医療体制の充実
定住を促進する環境の整備
上・下水道の整備
消防・防災・交通安全体制の充実
幼児教育、学校教育の充実

重点施策(分野) = [重要度:中] × [満足度:低]

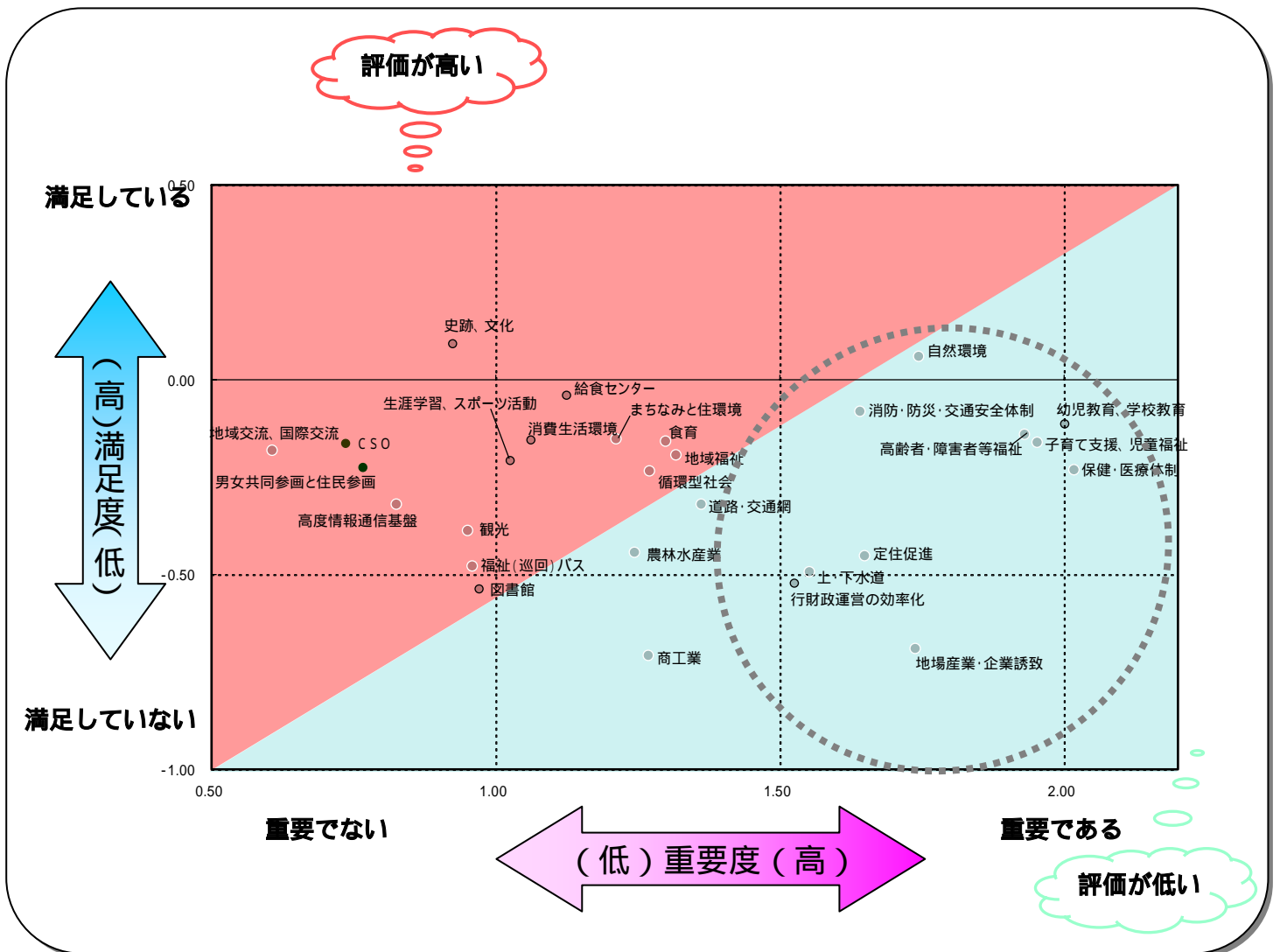
賑わいのある商工業の創出

アンケート分析手法 / CS分析とは？

従来、民間企業がマーケティング活動の一環で採用している分析手法の一つで、自社の製品・サービスに対する顧客の評価と満足度合いを定量的に調査する顧客満足度調査のこと。

公共事業に置き換えれば、市民を顧客とし、行政が実施する公共事業を顧客に対するサービス活動と捉え、それに対する顧客満足度を把握するという考え方である。

CSグラフは下図に示すように、縦軸が満足度、横軸が重要度を表現している。簡単に言えば、赤三角エリアは期待に見合った評価が得られており、青三角エリアは期待に対して評価が低いという見方ができる。



右下の青三角エリアに位置する項目が、公共事業に対する影響の大きさに比べ、満足度が下回っている項目であり、改善が優先される項目となる。